

2025.09

福田美術館

178年の歴史を持つ京都の金平糖専門店「緑寿庵清水」と 福田美術館のコラボレーションが実現！ 企画展「上村松園と美人画の軌跡」をモチーフにした 缶入り金平糖を10月11日より限定販売



京都・嵐山の日本画専門美術館「福田美術館」では、今もなお人々を魅了してやまない**美人画家・上村松園**
 (1875～1949)の生誕150周年を記念し、質・量ともに国内有数の美人画コレクションを誇る所蔵品から、28点
 もの松園の作品を一挙に公開する特別展「上村松園と美人画の軌跡」を2025年10月11日(土)～2026年1月18日
 (日)まで開催します。本展の開幕に合わせ、**日本唯一の金平糖専門店として178年の歴史を持つ京都の老舗「緑寿庵清水」**
 (りょくじゅあんしみず)とコラボレーションした金平糖2缶セット(税込3,600円)を館内のミュージ
 アムショップにて数量限定で発売します。

松園ファン垂涎！美人画の名品をデザインしたプレミアムな金平糖を限定販売

弘化4年(1847)に創業した緑寿庵清水は、伝統と独自の製法を守り、熟練の職人が丹精を込めて手作りしている、日本で唯一の金平糖専門店です。創業の地である京都と、東京・銀座に店舗を構えています。伝統的な製法で作られる金平糖には決まったレシピがなく、気温や天候に応じて蜜の濃度や釜の角度、温度を細かく調整しながら作られます。これらすべての技術を習得するには20年かかるとも言われ、緑寿庵清水では、1種類の金平糖に約2週間愛情を注ぎ、育てあげます。



今回発売する限定コラボレーション商品は、すりおろした林檎が褐変しないように工夫し、林檎本来の爽やかな風味をそのまま生かした「林檎の金平糖」と、上質な白桃の華やかな香りが口いっぱいに広がる「桃の金平糖」の、人気の2種類をセットにした商品です。



桃の金平糖

林檎の金平糖

「林檎の金平糖」の缶には、「松園ブルー」の振袖の美人画《春風》、
「桃の金平糖」の缶には、月を愛でる楚々とした女性の夏の場面が描かれた
《美人観月》をデザインしました。

包装紙には上村松園筆《和楽之図》が全面にわたって描かれており、
自宅用はもちろん、ギフトとしても喜ばれる逸品です。

商品概要

商品名：「上村松園生誕150周年記念 緑寿庵清水 金平糖セット」

販売期間：2025年10月11日(土)～在庫が無くなり次第終了

価 格：税込3,600円（2缶セット）



展覧会ではその他美人画グッズも販売

「上村松園と美人画の軌跡」展ではこの他
にも様々なミュージアムグッズを販売。
コンパクトな缶ミラーや缶マグネット
など、身近なアイテムで人気の美人画を
お楽しみ下さい。



缶ミラー（各種税込660円）／マグネット（各種税込550円）

10月11日開幕！上村松園生誕150周年展「上村松園と美人画の軌跡」



福田美術館では、上村松園の生誕150年を記念し、所蔵品から約30点を一挙公開する展覧会「上村松園と美人画の軌跡」を開催します。江戸時代の肉筆浮世絵から、松園初期の代表作《長夜》や初公開の《二軒茶や図》をはじめ、松園にゆかりの美人画家たちの作品も展示し、近代美人画の流れをご紹介します。また、第二会場・嵯峨嵐山文華館では「浮世絵と美人画の軌跡」を開催し、肉筆浮世絵を中心に歌舞音曲(かぶおんぎょく)やお座敷などの文化にも注目した内容を展示します。京都の芸妓たちを描いた祇園井特（ぎおんせいとく）による肉筆作品の数々や、歌舞伎を愛した鍋木清方が可憐な女性像を描いた《宇治の螢かり》のほか、9点の初公開作品が含まれます。

- 会期：2025年10月11日（土）～2026年1月18日(日)
- 開館時間：10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休館日11月11日(火)、12月2日(火)、12月16日(火)、12月30日(火)、12月31日(水)、1月1日(木)
- 場所：福田美術館（京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16）

プレスリリース／広報用画像に関するお問合せ

福田美術館／嵯峨嵐山文華館広報事務局（共同ピーアール内）
担当：田中真衣、樋口
TEL：03-6264-2045
Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという想いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人を訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然と共に日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。

福田美術館は2024年10月で開館5周年を迎えました。今後も「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。

